

畜産物の価格安定対策を急げ

福田種鶏場研究所長（前兵庫県畜産課長）

小倉正男

畜産物に対する国民の需要の増大に伴って我国の畜産は、特に乳牛、豚及び鶏を中心として順調に伸展を見つつあることは喜ばしいことである。しかしながら、最近の実情を見ていると、まだまだ我国畜産の底の浅さが痛感させられる。ことに流通面においてその感が深い。昨年春において肉豚価格が暴落を見たと思う間もなく、年末に豚肉が暴騰を来たし肉類の緊急輸入という事態をひき起し、鶏卵鶏肉については昨秋ひなの餌付羽数の急増、米国よりの冷凍チキン輸入等の影響を受けてその価格は暴落し、こと鶏卵については未曾有の安価を現出し、最近農業構造改善事業等によって急増した大規模養鶏家に大きな打撃を与えた。乳については乳価をめぐる生産者、処理業者及び販売業者間の紛争は年中行事化しようとしている。本春より日本もいよいよ開放経済に突入し、大部分の品目が次々に自由化（鶏についてはすでに新しい伝染病の導入という、お土産つきで自由化）されようとしているとき、日本の畜産の前途は決して楽観を許し難い状況にあるといわざるを得ない。

この際生産者としては国際競争に堪え得るような生産体制を確立するため、生産費引下げのための経営改善の合理化、出荷体制の改善強化等に一段の工夫努力を重ねなければならないが、ここで特に要望したいことは、国・県等の行政庁による畜産物の価格流通対策の強化である。周知の如く現在「畜産物の価格安定等に関する法律」に基づき牛乳、乳製品及び豚肉について充分とはいえないが一応の価格安定措置が講ぜられており、また生乳については要請に基づき指導措置ではあるが酪農会議による計画生産、計画出荷の指導を行う体制ができており、さらに牛乳及び乳製品のみについては学校給食事業に対する助成が行われている。こうして並べて見ると同じ畜産物であり、しかも最も産額の大きい養鶏生産物に対しては、どうしたものか余り考慮が払われていない。酪農については保護政策がとられ、価格安

定の措置が講ぜられ、学校給食の助成が行われ、小売価格及びその値上げ分の配分についても行政庁が指導するというかなり手厚い指導助成が行われているが、こと養鶏については政治力が弱いというのか、養鶏農民の団結力が弱



いというのか、この声があまり中央に反映せぬままに養鶏助長施策、ことに価格流通対策がおろそかにされていることは養鶏農民にとって割切れぬものがあるのではないだろうか。かつて私が兵庫県に在職中、会計検査院の検査官に随行して検査に立会したことがあるが、この時驚いたことは農林省関係の助成金のみで一町村に対する助成事業の項目が如何に数多くあるかという事であった。中には末端農家1戸当りにすると何十円、何円というような零細なものまであるのに2度びっくりしたことがある。最近行政管理局あるいは大蔵省等でこの問題を取りあげているので、その後相当整理されたものとは思いますが、この際速やかに、また英断をもって零細補助金、特定人に対する補助金、効果の上がらぬ補助金等にメスを入れてこれ等を大幅に整理して、その金とその補助金事業に関与している人をもっと必要なことに重点的に、特に緊急を要する農畜産物の価格流通対策のために投入されることが望まれる次第である。数年前ICAの関係で渡米した折の調査であるが、米連邦政府農務省の予算は生産事業に対する助成金は極く緊要なものに限られ、総予算の約70%が価格安定措置に使われているという説明を聞いた。我国においても速やかに畜産物全般にわたってさらに強力適切な価格流通対策が講ぜられ1日も早く畜産物の価格が安定し畜産の振興が「成長産業」という掛声に終ることなく、実質的にもっと安定して健全な伸展をなす事を希念して止まぬ次第である。